

身近な消費生活を工夫し創造しようとする生徒の育成

—— 学びのつながりを意識できる「つながりシート」
を用いた授業プランの作成と活用を通して ——

長期研修員 蓼沼 佐弥香

《研究の概要》

本研究は、中学校家庭科「消費生活」において、学びのつながりを生徒自身が意識できる「つながりシート」を用いた授業プランを作成し、活用することで、身近な消費生活を工夫し創造しようとする生徒の育成を目指したものである。

「つかむ」「追究する」「まとめる」の各学習過程において、小・中学校の学びのつながり、単位時間ごとの学びのつながり、学びと生活とのつながりを生徒自身が意識できる「つながりシート」を用いた活動を設定する。生徒自身が学びのつながりを意識しながら実践的・体験的な学びを積み重ねることは、自立した消費者としての責任ある行動を考え、身近な消費生活を工夫し創造しようとする生徒を育成するために有効であることを、実践を通して明らかにした。

キーワード 【家庭—中 消費生活 学びのつながり 授業プラン】

群馬県総合教育センター

分類記号：G07-04 令和2年度 273集

I 主題設定の理由

2004年（平成16年）に消費者基本法が公布されて以降、消費者は「自立した存在」として捉えられ、自主的で合理的な行動をとることが求められるようになった。また、2022年4月からは、成年年齢を18歳に引き下げる民法が施行される。急速な変化の中、子供たちは、十分な知識をもたないまま社会に出ることで、悪質な商法等の消費者トラブルに遭いやすくなることが懸念されている。学校教育においても、消費者教育の重要性はますます高まるであろうと考える。

中学校学習指導要領解説技術・家庭編（平成29年7月）では、小・中・高等学校の内容の系統性を重視し、小・中学校においては、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の三つの内容に整理された。小学校の学びが中学校の学びへとつながり、高等学校の学びに発展していくものとして意識し、学びの確実な定着を目指している。自立した消費者としての責任ある消費行動を工夫できる力を育成するためには、学校教育全体を見通し、小・中・高等学校それぞれの発達の段階に合った消費者教育を、計画的に継続して行うことが必要である。

令和2年度群馬県学校教育の指針には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために、家庭科、家庭分野の重点項目として「生活の中から問題を見だし、題材の課題を立てる場面を設定しましょう」とある。題材の課題を立てさせる際には、既習の知識及び技能や生活経験を基に、家庭や地域における生活を見つめさせることが重要である。

研究協力校では、小学校家庭科「消費生活と環境」の内容について基礎的な知識及び技能を身に付けて中学校に進学してくる。しかし、身に付けた知識及び技能を身近な生活の中で十分に生かすことができていないという実態がある。原因の一つとして、学んだことを実際の生活に生かす経験が乏しく、実感を伴った理解に結び付いていないことが考えられる。自分の消費生活を見つめ直し、自分や家族の抱える問題を見いだすことで、解決すべき課題を明確にもって学習に取り組ませる必要があると考える。

本研究では、「消費生活」の題材において、小学校の学びと中学校の学びをつなげ、学びが身近な生活とつながっていることを実感させるために、「つながりシート」を用いた授業プランを作成し、活用することの有効性を明らかにする。生徒自身が、つながりを意識しながら実践的・体験的な学びを積み重ね、学びによって身に付けた知識及び技能を身近な生活の中で生かすことができると実感することで、家庭や地域における消費生活の課題を主体的に解決しようとする力につなげたい。そして、自立した消費者としての責任ある行動を考え、身近な消費生活を工夫し創造しようとする生徒の育成に取り組んでいきたいと考える。

II 研究のねらい

「消費生活」において、身近な消費生活を工夫し創造しようとする生徒を育成するために、学びのつながりを生徒自身が意識できる「つながりシート」を用いた授業プランを作成し、活用することで、その有効性を明らかにする。

III 研究仮説（研究の見通し）

1 つかむ過程では自分や家族の問題を見だし、解決したい課題を設定する

「つながりシート」を用いて、小学校の学びを振り返ったり自分や家族の消費生活を見つめ直したりすることで、身近な消費生活における問題を見だし、解決したい課題を設定することができるであろう。

2 追究する過程では、学びのつながりを意識した学習を行って課題の解決に取り組み、学びを生活の中で生かすことができるという実感をもつ

「つながりシート」を用いて、小・中学校の学びのつながりや単位時間ごとの学びのつながりを意

識した学習を積み重ねることにより、これまで学んだ知識及び技能を生かして課題の解決に取り組むことができるであろう。また、身に付けた知識及び技能が身近な生活の中で生かされている具体的な場面について気付いたり、学びと生活とのつながりについて考えたりしたことを「つながりシート」に記録することにより、学びを生活の中で生かすことができるという実感をもつことができるであろう。

3 まとめる過程では、学びを振り返ってこれからの消費生活を見つめ直し、自立した消費者としての責任ある行動について考えを深め、消費生活を工夫し創造しようとする態度を養う

「つながりシート」を用いて、これまでの学びを振り返ってまとめ、自分や家族のこれからの消費生活を改めて見つめ直すことで、自立した消費者としての責任ある消費行動について自分の考えを深め、身近な消費生活を工夫し創造しようとする態度の育成につなげることができるであろう。

IV 研究の内容

1 文言の定義

(1) 「身近な消費生活を工夫し創造しようとする生徒」とは

自分の消費行動は社会や環境に関わりがあるという意識をもち、よりよい消費生活の実現に向け、身に付けた知識及び技能を生かして、自分ができることを積極的に実践しようとする生徒である。

(2) 「学びのつながり」とは

本研究においては、「学びのつながり」を三つの視点で整理した。

① 「小学校の学びのつながり」

小学校の学びを振り返り、自分や家族の消費生活を見つめ直し、小学校の学びによって身に付けた知識及び技能を生かして、課題を解決する。

② 「中学校の学びのつながり」

単位時間ごとの学びを積み重ね、身に付けた知識及び技能を生かして、課題を解決する。

③ 「生活と学びのつながり」

身近な生活から自分や家族の消費生活を見つめ直し、学びによって身に付けた知識及び技能を生活の中で生かす。

これらの三つの視点を踏まえながら、学びのつながりを意識させる活動を充実させることで、自分の消費行動と社会や環境との関わりを考え、よりよい消費生活の実現に向け、身に付けた知識及び技能を生かして、自分ができることを積極的に実践しようとするようにしたい。

(3) 「つながりシート」とは

「つかむ」「追究する」「まとめる」の各学習過程において、小・中学校の学びのつながり、単位時間ごとの学びのつながり、学びと生活とのつながりを生徒自身に意識させるために、学びをつなぐためのシートを3枚作成し、「つながりシート」とした(図1)。これらの「つながりシート」は、生徒が必要に応じていつでも用いることができるシートで、単位時間の課題を解決するためのワークシートとは異なる。

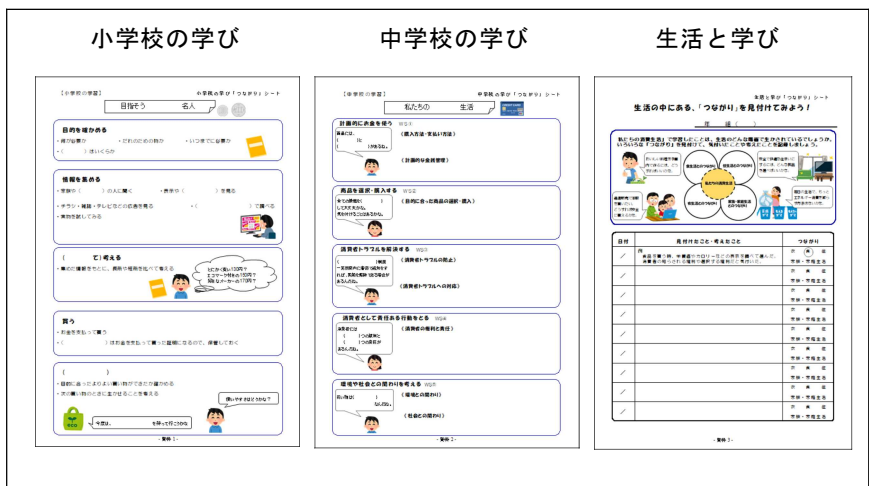


図1 学びをつなぐための「つながりシート」

① 小学校の学び「つながりシート」

小学校で学んだ「消費生活」の内容が、1枚のシートにまとめられている（図2）。小学校の学びを生活に生かすことができているか考えたり、小学校の学びを中学校の学びにつなげ、課題の解決に生かしたりするためのシートである。小学校で学んだことを必要なときにいつでも自分で確認することができる。

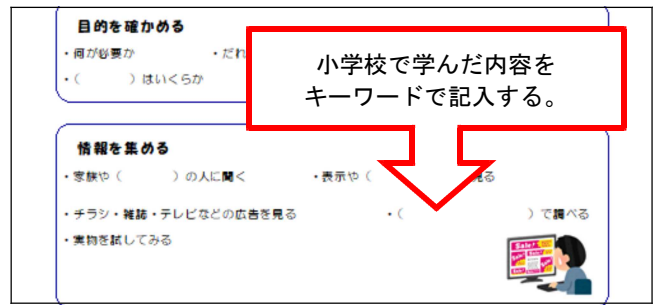


図2 小学校の学び「つながりシート」(一部)

② 中学校の学び「つながりシート」

中学校で学ぶ「消費生活」の内容が、1枚のシートにまとめられている（図3）。追究する過程で、授業の最後に単位時間ごとの学びを記入する。授業で身に付けた学びを次の学びにつなげ、課題の解決に生かすためのシートである。学びのつながりを意識しながら実践的・体験的な学習を積み重ね、学習の課題を解決できるようにする。

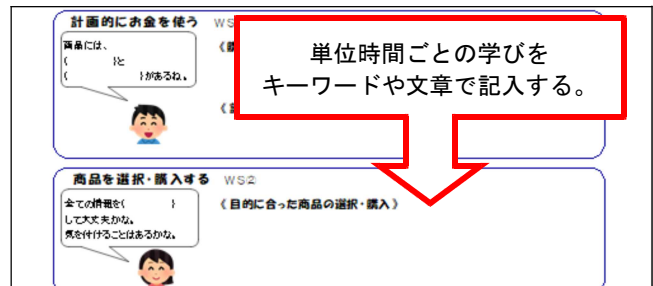


図3 中学校の学び「つながりシート」(一部)

③ 生活と学び「つながりシート」

授業で学んだことが生活で生かされている場面を記録するためのシートである（図4）。生徒たちが手元に持ち、授業中でもそれ以外でも、気が付いたときにいつでも書き込むことができる。授業では、シートに記録された自分の気付きについて友達と意見を交流する。学びによって身に付けた知識及び技能が生活に生かされているという実感をもつことができるようにする。

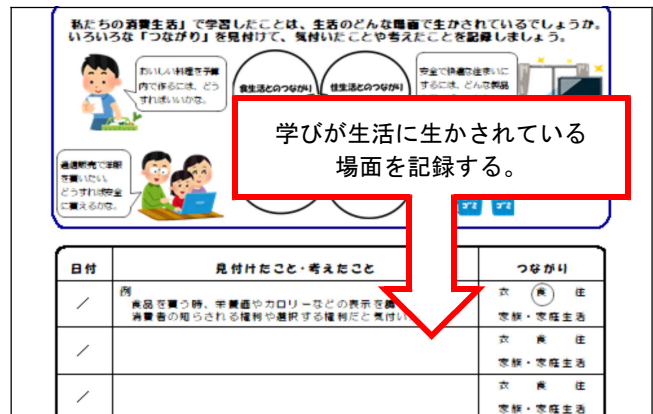


図4 生活と学び「つながりシート」(一部)

(4) 「つながりシート」を用いた授業プランとは

身近な消費生活を工夫し創造しようとする生徒を育成するために「つながりシート」を用いた授業プランである。この授業プランを構想するに当たっては、群馬県教育委員会が示している「はばたく群馬の指導プランⅡ」を基本とした。生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視して作成している。「つかむ」「追究する」「まとめる」各学習過程において「つながりシート」を用いることで、生徒自身が学びのつながりを意識し、実践的・体験的な学びを積み重ねることをねらいとした。

① 「つかむ」過程

小学校の学び「つながりシート」を用いて小学校の学びを振り返ってまとめ、自分の「つながりシート」を完成させる。また、今の自分は小学校の学びを生かすことができているか考え、自分や家族の消費生活を見つめ直し、消費生活の問題点を「解決したい課題」として設定する。

② 「追究する」過程

小学校の学びがまとめられた小学校の学び「つながりシート」を用いて、小・中学校の学びのつながりを意識した学習を積み重ねる。また、中学校の学び「つながりシート」を用いて、単位時間ごとの学びのつながりを意識した学習を積み重ねる。これまでの学びから得られた知識及び技能を生かして課題の解決に取り組むことができるようにする。

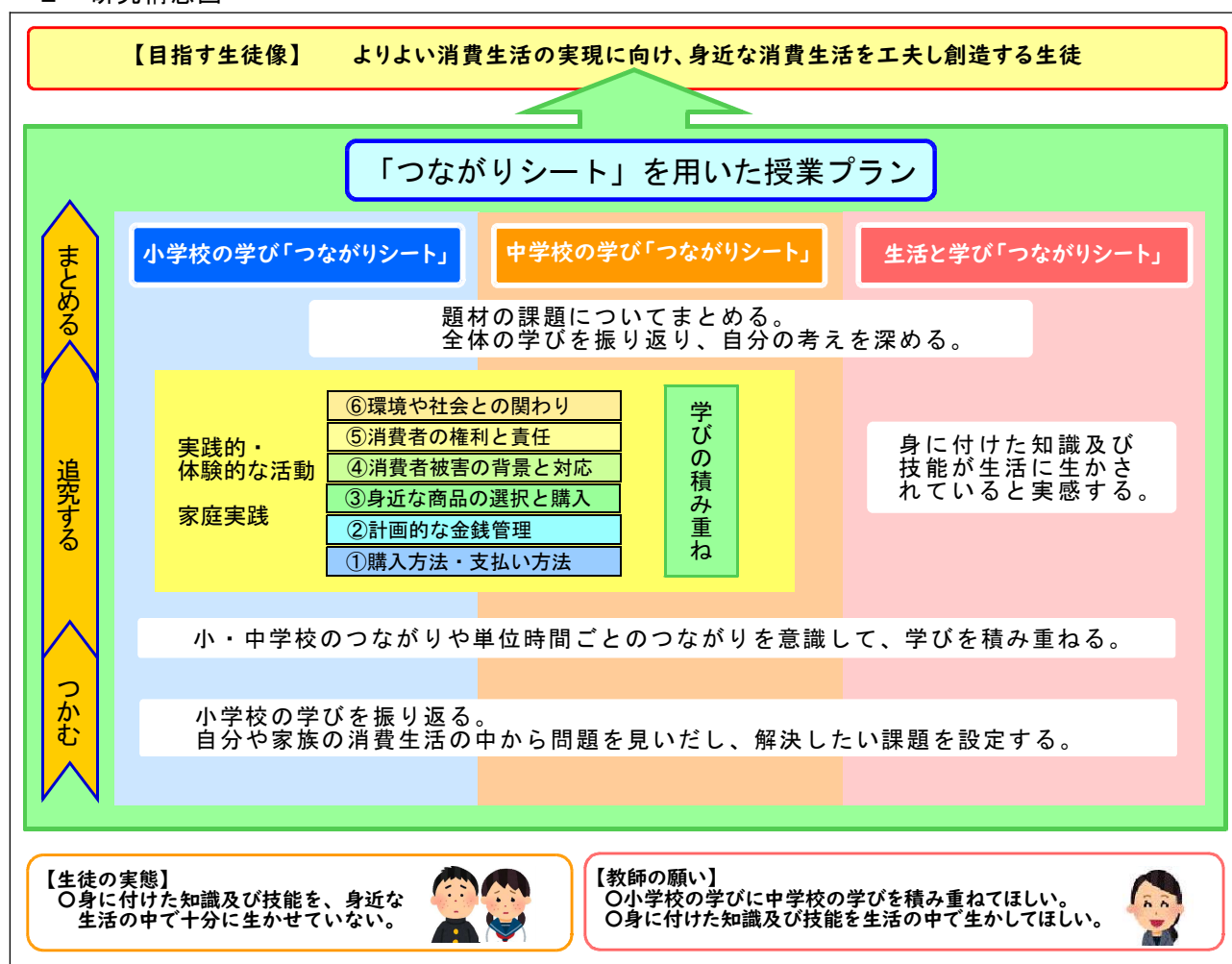
生活と学び「つながりシート」を用いて、学んだことが身近な生活の中で生かされている場面に

気付いたときに記録をする。生活と学びのつながりについての自分なりの気づきや考えを記録に残したり、自分の気づきについて友達と意見を交流したりして、学びによって身に付けた知識及び技能が生活に生かされているという実感をもつことができるようにする。

③ 「まとめる」過程

3枚全ての「つながりシート」用いて、身に付けた知識及び技能を確認したり、学びと生活とのつながりについて考えたりして、これまでの学びを振り返る。学習後の自分の消費生活の変容に気づき、自分や家族のこれからの消費生活を改めて見つめ直すことで、よりよい消費生活の実現に向けた消費行動について自分の考えを深める。自立した消費者として自分ができることを具体的に表現し、これまでの学びを生かして積極的に実践しようとする意欲をもって学習を終えることができるようにする。

2 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対 象	研究協力校 中学校第1学年 (4学級)
実践期間	令和2年9月29日～11月20日 全8時間
題 材 名	「私たちの消費生活」
題材の目標	自分や家族の生活の中から、商品の選択・購入や消費行動について問題を見出して課題を設定し、課題を解決するために必要な知識及び技能を身に付けるとともに、自立した消費者としての責任ある消費行動を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。

2 検証計画

検証の観点	検証の方法
つかむ過程において、「つながりシート」を用いて小学校の学びを振り返り、自分や家族の消費生活を見つめ直すことは、消費生活における問題を見いだして解決したい課題を設定するために有効であったか。	<input type="checkbox"/> 事前アンケート分析 <input type="checkbox"/> 題材の課題を設定するワークシート分析 <input type="checkbox"/> 「つながりシート」分析
追究する過程において、「つながりシート」を用いて、学びのつながりを意識しながら学習を積み重ねることは、これまで学んだ知識及び技能を生かして課題を解決するために有効であったか。また、身に付けた知識及び技能が自分や家族の生活の中に生かされている場面を見付け「つながりシート」にまとめることは、学びと生活とのつながりに気付いたり、学びを生活の中で生かすことができると実感したりするために有効であったか。	<input type="checkbox"/> 生徒の発言や行動の分析 <input type="checkbox"/> 課題を追究するワークシート分析 <input type="checkbox"/> 「つながりシート」分析
まとめる過程において、「つながりシート」を用いて、これまでの学びを振り返り自分や家族の消費生活を改めて見つめ直すことは、よりよい消費生活の実現に向けた消費行動について自分の考えを深めるために有効であったか。	<input type="checkbox"/> 生徒の発言や行動の分析 <input type="checkbox"/> 題材全体の学習を振り返るワークシート分析 <input type="checkbox"/> 「つながりシート」分析

3 抽出生徒

A	B
消費生活の学習についての興味関心がやや高い。現金以外の支払い経験はほとんどなく、電子マネーを用いた支払いやインターネットでの購入に興味をもっている。本題材を通して、自立した消費者としての責任ある行動を考えて身近な消費生活に生かそうとする態度を身に付けさせたい。	消費生活の学習についての興味・関心が低い。現金以外での支払い経験はあるが、インターネットでの買い物経験はほとんどない。本題材を通して、自分なりに自立した消費者としての責任ある行動を考えて実践しようとする態度を身に付けさせたい。

4 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現するなど課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5 指導計画 中学校第1学年 題材名「私たちの消費生活」(全8時間計画)

過程	時間	○学習活動 ◎研究上の手立て	つながりシートの活用		
			小学校	中学校	生活
つかかむ	第1時	○自分や家族の消費生活について問題を見いだし、見いだした問題から題材の課題を設定して、学習の見通しをもつ。 ◎小学校の学びを振り返らせ、これからの学びとのつながりを意識させる。	○		
追究する	第2時	○身近な商品を購入する場面において、様々な購入方法や支払い方法についての利点や問題点を考える。 ◎小学校の学び「買物の仕組み」と本時の学びをつなげ、課題の解決に取り組ませる。	○	○	
	第3時	○様々な支払い方法に応じた、計画的な金銭管理の必要性について考える。 ◎小学校の学び「物や金銭の大切さと計画的な使い方」と本時の学びをつなげ、課題の解決に取り組ませる。 ◎学びと生活とのつながりに関する気付きについて友達と意見を交流させる。	○	○	○
	第4時	○身近な商品を購入する疑似体験を通して、商品を選択する際に必要な情報を活用した購入について考える。 ◎小学校の学び「身近な物の選び方・買い方」「情報の整理」と本時の学びをつなげ、課題の解決に取り組ませる。 ◎前時までの学びを生かして課題の解決に取り組ませる。	○	○	○
	第5時	○身近な商品における消費者被害の事例を基に、消費者被害の背景と適切な対応について考える。 ◎小学校の学び「買物の仕組み」と本時の学びをつなげ、課題の解決に取り組ませる。 ◎学びと生活とのつながりに関する気付きについて友達と意見を交流させる。	○	○	○
	第6時	○消費者の権利と責任について考え、消費者としての責任を果たすために実践できることを具体的に考える。 ◎小学校の学び「消費者の役割」と本時の学びをつなげ、課題の解決に取り組ませる。 ◎前時までの学びを生かして課題の解決に取り組ませる。	○	○	○
	第7時	○身近な商品を例に、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について考える。 ◎小学校での学び「自分の生活と身近な環境との関わり」「環境に配慮した物の使い方」と本時の学びをつなげ、課題の解決に取り組ませる。 ◎学びと生活とのつながりに関する気付きについて友達と意見を交流させる。	○	○	○
	【家庭での実践①】 ○これまでの学習で身に付いた知識及び技能を生かして、家庭や地域で実践を行う。				
まとめ	第8時	○よりよい消費生活に向け、自立した消費者としてこれからの自分が実践できることを具体的に考え、まとめる。 ◎これまでの学びや自分の気付きについて振り返ってまとめさせ、題材を通して自分が変容したことを実感させる。	○	○	○
【家庭での実践②】※長期休業期間中の実践 ○自分や家族の消費生活を改めて見つめ直し、新たな課題を見いだして設定し、課題の解決に向けた実践計画を作成して実践する。 ※実践後は、互いの活動を評価できる場(発表会やワークシートの掲示等)を設定する。					

VI 研究の結果と考察

1 つかむ過程における、解決したい課題の設定

(1) 全体の様子

事前アンケートによると、約80%（とてもそう思う25%・ややそう思う55%）の生徒が「小学校の消費生活で学んだことは生活の中で生かされていると思う」と回答した（図5）。この結果を提示し、そう思う理由を尋ねると、「大人になったときに役に立つ」「何となくそう思う」といった漠然とした意見が大半を占めた。そこで、小学校の学び「つながりシート」を用いて、小学校の消費生活で学んだ内容を振り返らせ、「今の自分たちは本当に小学校で学んだことを生かした消費生活を送れているだろうか」と問い、自分たちの消費生活の実態について考えさせた。生徒たちは、「計画的に使えず、お金が不足する」「たくさん買ってしまふ」「買ったけれど使わずに捨ててしまう」等、自分たちの消費生活に関する共通した問題を確認した。また、これらの共通した問題は、小学校で学んだことを生かせれば解決することが多いと気づき、「小学校での学びを、生活の中で十分に生かすことができていない」という自分たちの消費生活の実態を全員で共有した（図6）。今の消費生活をもっとよくするために、自分たちが目指す姿を「こんな消費者になりたい」としてイメージさせ、解決したい題材の課題として設定した（図7）。

つながりシートを用いて小学校の学びを振り返り、自分たちの消費生活の問題を明らかにしたことで、題材の学習後に目指す姿を具体的にイメージすることができた。本時の振り返りでは、約80%の生徒が小学校の学びに関わる内容の記述をし、「学びのつながり」を意識して課題を解決しようといった意見を全体で共有することができた（図8）。

以上のことから、「つながりシート」を用いて小学校の学びを振り返ってまとめたことは、これまでの学びとこれからの学びのつながりを意識し、消費生活の問題を見いだして題材の課題を設定するために有効であったと言える。

(2) 抽出生徒の様子

抽出生徒Aは、自分の消費生活の問題について「衝動買いをしてしまって、後悔することがある」と述べていた。「つながりシート」を用いた学びの振り返りから、小学校で学んだ「お金の計画的な使い方」について生活で十分に生かすことができていないことに気付いた。その気づきから今の自分の消費生活を見つめ直し、解決したい題材の課題を自分なりの言葉で具体的に設定した。本時の振り返りでは、学びのつながりを意識した記述をすることができた（次ページ図9）。

抽出生徒Bは、学習前のアンケート調査では「小学校で学習したことはあまり覚えていない」と回答した。しかし、「つながりシート」を用いて小学校の学びを確認させたところ、徐々にこれまで学んだ内容を思い出しながらキーワードを記入し、つながりシートを完成させた。また、自分の消費生活の問題について「たくさん買ってしまふ、使い切れずに捨てることがある」と述べ、つな

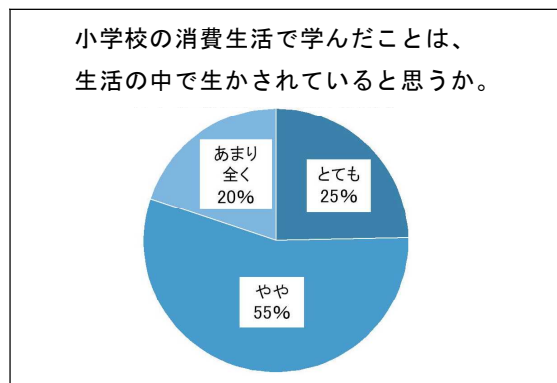


図5 事前アンケートの結果

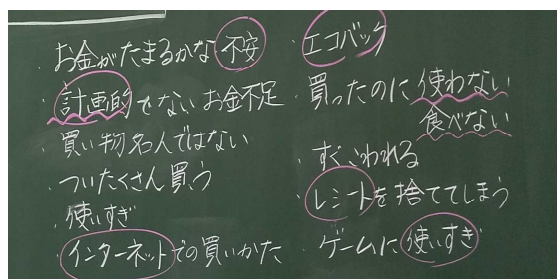


図6 消費生活の問題の板書

- 本当に必要なのか、よく考えてお金を使える消費者になりたい。
- 環境のことを考えて行動ができる消費者になりたい。

図7 解決したい題材の課題

- 小学校で学んだことを覚えてはいたけれど、本当は生かせていないことが分かった。
- 自立した消費者になるために、学んだことを生活で生かせるようになりたい。

図8 振り返りの感想（第1時）

がりシートに記入したキーワードをヒントにしながら題材の課題を設定した。本時の振り返りでは、自分なりに学びのつながりについて考え、気づきを記述することができた（図10）。

以上のことから、「つながりシート」を用いて小学校の学びを振り返り、自分や家族の消費生活を見つめ直したことで、抽出生徒Aは、学びのつながりを意識して、自分や家族の消費生活を見つめ直し、解決したい課題を設定することができたと言える。また、抽出生徒Bは、学びのつながりに気づき、つながりシートを用いて自分なりに消費生活の課題を設定することができたと言える。

2 追究する過程

(1) つながりを意識した学びの積み重ね

① 全体の様子

追究する過程では、「両親と中学生のA子、小学生の弟の4人家族」という模擬家族と、模擬家族の1ヶ月の家計を設定した。そして、毎時間ごとに模擬家族の消費生活に起こる出来事を事例にした学習課題を提示し、その解決方法を考えた。

第2時「購入方法・支払い方法」・第3時「計画的な金銭管理」では、「冷蔵庫が壊れてしまい、修理代金が6万円かかる」という少し高額な出費を例に、修理代金をどのようにして支払えばよいかを検討した。生徒たちは、つかむ過程で各自が記入し作成した小学校の学び「つながりシート」を用いて、「現金による店頭での買物」「計画的なお金の使い方」等について確認し、

中学校の学び「無店舗販売での買物」「電子マネーやクレジットカードなどの多様な支払い方法」との違いを意識して課題に取り組んだ。振り返りの場面では、計画的に金銭を管理することの必要性について考えを深める生徒の姿があった（図11）。

第4時「身近な商品の選択と購入」では、模擬家族における冷蔵庫の購入の模擬体験を行った。「販売する店舗」「価格」「品質や機能」「アフターサービス等の保証内容」「省エネ機能等の環境への配慮」等、条件の異なる複数の商品を提示し、模擬家族にとって最適な冷蔵庫について考えさせた。必要な情報を収集して整理し、商品を選択・購入する活動では、小学校の学び「つながりシート」を用いて「情報を整理して比較する」「表示を確認する」「買った後は振り返って評価する」等、商品の選び方や買い方の工夫について確認をした（図12）。また、中学校の学び「つながりシート」を用いて、前時までの学びから課題の解決に生かすことができる内容として「販売方法」「支払い方法」を探し出した。約90%の生徒が、多様な観点から商品を比較した

解決したい題材の課題
無駄遣いなどをしない計画的な消費者になりたい。
本時の振り返り
自分が解決したい課題が分かったので、小学校のことを生かして学習がしたい。

図9 抽出生徒Aのワークシートの記述

解決したい題材の課題
買物にエコバッグを使いたい。 無駄遣いをしないようにしたい。
本時の振り返り
今日の授業では、小学校で学んだことを思い出しました。学んだことを「覚えている」と「生かしている」ことは違うなと思いました。

図10 抽出生徒Bのワークシートの記述

○家計について考えたことがなかった。 <u>計画的にお金を使う</u> ことは大切なことだと思った。
○前払い・即時払い・後払いの3つの支払い方法があることを知ったので、現金、図書カード、電子マネーなどを <u>上手に使い分け、限られたお金を管理できる</u> ようになりたい。

図11 振り返りの感想（第3時）

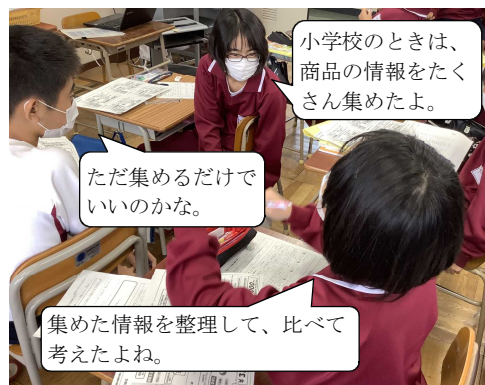


図12 小学校の学びを確認する様子（第4時）

り、予算と家計のバランスを考えた支払い方法を検討したりして、目的に合った商品を自分なりの根拠をもって選択することができた。

第5時「消費者被害の背景と対応」では、消費者被害に遭ってしまった模擬家族に対して、学んだことを生かした適切なアドバイスを考えた。これまでの経験から、課題を解決するヒントが「つながりシート」にあることを知っている生徒たちは、学びが記録された自分の「つながりシート」から、模擬家族へのアドバイスに生かせそうな言葉を探し始めた。生徒たちは、これまでの学びを生かした具体的なアドバイスの言葉を考え、ワークシートに記述することができた(図13)。

- インターネットで商品を買うときは、実際に見て確認できないので、商品によっては店舗販売で直接見て買った方がよいときもありますよ。
- 商品を選ぶときは全ての情報を簡単に信用せず、よく調べたほうがよいです。市内の消費生活センターに相談をしてみてください。

図13 模擬家族へのアドバイス(第5時)

第6時「消費者の権利と責任」では、「消費者としての責任を果たすために自分たちができる行動」について考えた。「つながりシート」を用いてこれまでの積み重ねた学びを生かして課題の解決を繰り返してきた生徒たちは、教師の指示がなくても「つながりシート」から本時の課題の解決のヒントとなる内容を探し始めた。そして「中学生である自分ができる行動」について生徒同士で意見を交換し合い、約90%の生徒が、これまでの学びを生かして自分たちができる行動を具体的に考え、記述することができた(図14)。「消費者の権利と責任」の内容に関しては、「意見の反映」「健康な環境を享受」「批判的意識」「連帯する」等、やや難解な表現が多いために生徒たちが共感しにくい場合があり、生徒たちに興味関心をもたせるための工夫を必要とする内容である。「つながりシート」を用いて、これまでの学びとの関連をもたせたり、生活とのつながりに気付かせたりすることで、身近な生活の中にある「消費者の権利と責任」について気付き、自分たちが果たせることはどのようなことかを考え、具体的に表現することができた。

- 省エネの商品を選択して購入することは、電気代が減って家計が楽になるだけでなく、環境への配慮をする責任を果たすことにもなる。
- 問題のある商品を地域の消費センターに連絡することは、主張し行動する責任を果たすことになる。
- たくさんの情報を「本当に全て信用できるか」と考えることは、批判的意識をもつ責任を果たすことだ。

図14 ワークシートの記述(第6時)

第7時「環境や社会への配慮」では、環境や社会に配慮した消費生活のために自分たちができることについて考えた。「地球環境の保護の支援」「発展途上国の生産者や労働者の支援」「発展途上国の学校給食の支援」等の意味をもつ表示やマークを提示し、なぜこのような表示やマークが付いているのか考えさせた。生徒たちは、普段目にしたり購入したりする商品のパッケージから様々な表示やマークを発見し、品質や価格とは関係のない表示やマークが付けられている意義について、興味をもって考えることができた。「なぜ、環境や社会に配慮した消費生活を目指すのだろうか」について話し合う活動の際は、生徒たちの考えを深めさせるために、話し合い活動に「つながりシート」を用いた。生徒たちは、第4時「身近な商品の選択と購入」や第6時「消費者の権利と責任」の学びを振り返り、本時の課題とのつながりを考えながら話し合い活動を行った(図15)。

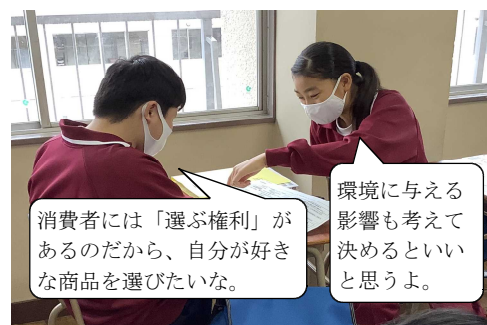


図15 話し合い活動の様子(第7時)

以上のことから「つながりシート」を用いて小・中学校や単位時間ごとのつながりを意識した学びを積み重ねたことは、これまで学んだ知識及び技能を生かして課題を解決するために有効であっ

たと言える。

② 抽出生徒の様子

抽出生徒Aは、第4時「身近な商品の選択と購入」における冷蔵庫の購入の模擬体験で、クレジットカードを使った後払いによる支払いを決めた。その際、前時の学びを思い出し「支払い回数を何回にすればよいだろうか」と、できる限り家計の負担にならないように支払う方法について、友達と話し合いながら考えていた。また、第6時「消費者の権利と責任」では、消費者の責任ある行動は、前時の学び「消費者被害の対応」につながることに気づき、「商品の欠陥に気が付いたとき消費生活センターに連絡をすることは、みんながよりよい消費生活を送るための消費者の責任だと思った」と述べた。第7時「環境と社会との関わり」では、自分の好みを優先して商品を選びたいという友達に対して、「好みだけでの選択を繰り返すと家計の収支バランスが崩れる。環境に与える影響を考えることも消費者の責任なのではないか」と前時までの学びと本時の学びとのつながりを意識した自身の考えを伝えていた。

抽出生徒Bは、第4時「身近な商品の選択と購入」で、始めは最も安価であるという理由からリサイクルショップの冷蔵庫を選択した。しかし、「環境への配慮から、不用になったものを再利用するリサイクルショップの冷蔵庫を選ぶ」という友達の意見を聞き、価格以外の商品の情報に興味をもって再検討を始めた。最終決定では、「電気代が安いことは、環境への配慮につながる」という理由から、消費電力が最も低い冷蔵庫を選択した。また、第7時「環境と社会との関わり」では、環境や社会に配慮した消費生活について考える際に、第4時で環境に配慮した商品を選択していたことを思い出した。本時の振り返りでは、「物を長く大切に使うことは、環境への配慮につながる」と、自分が実践できる具体的な行動をワークシートに記述することができた。

以上のことから、抽出生徒A、B共に、つながりを意識して学びを積み重ねたことで、これまで学んだ知識及び技能を生かして課題の解決に取り組むことができたと言える。

(2) 学びと生活とのつながり

① 全体の様子

生活と学び「つながりシート」を第2時に配布し、いつでも気付いたときに、学んだことが生活に生かされている場面を記録するように伝えた。生徒たちは、生活の中での何気ない行動や出来事に目を留め、商品を購入する際に表示やマークを確認したことや宣伝や広告に惑わされないこと等、様々な場面での気づきや考えを「つながりシート」に記録していた。また、本題材の前に学んだ「衣生活」の内容と、消費者の権利等とのつながりに関わる気づきを記録する生徒や(図16)、社会科など他教科とのつながりに関わる気づきを記録する生徒もいた(図17)。

第3時、第5時、第7時に、生活と学び「つながりシート」を用いて、自分が気付いた生活と学びのつながりについて、友達と意見を交流する時間を設けた。売り上げの一部が寄付される商品の存在に気付いた友達の意見や、被災地を支援できる商品を家族で購入しているという友達の意見を「消費者の権利と責任」の学びとつなげ、「みんなが幸せになれるよう行動することも、消費者の権利と責任なのかもしれない」

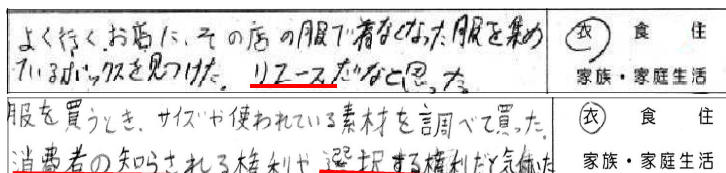


図16 衣生活とのつながりに関わる気づき

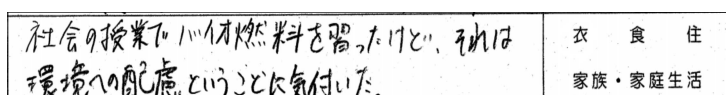


図17 社会科とのつながりに関わる気づき

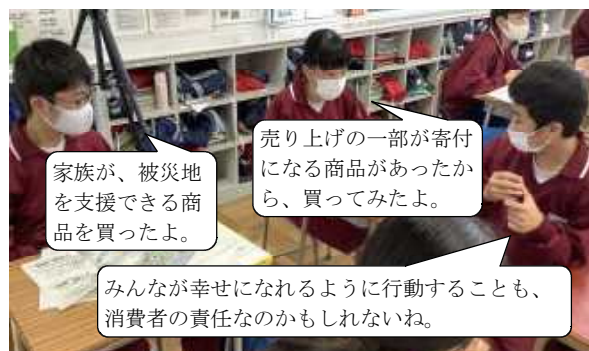


図18 互いの意見を交流する様子

と新たなことに気付く生徒の姿があった（前ページ図18）。

以上のことから、生活と学びとのつながりを記録してまとめたことは、学びを生活の中で生かすことができる実感させるために有効であったと言える。

② 抽出生徒の様子

第7時に、自分が気付いた生活と学びのつながりについて、友達と意見の交流をした際、抽出生徒Aは、「家のカーテンに防火ラベルが付いていた。デザインや価格だけではなく、機能も考えて購入していると気が付いた。表示やマークの意味を理解して選択をすることは消費者として大切なことだと思った」と、話していた。

また、普段は学習活動への参加が消極的な抽出生徒Bが、友達の意見を聞いて気付いたことや考えたことを、自分なりの言葉で「つながりシート」に記述していた（図19）。

以上のことから、抽出生徒A、B共に、学びを生活の中で生かすことができると実感することができたと言える。自分の学びが自分の言葉でまとめられたシートがいつも手元にあり、分からないときはいつでもシートを確認できたことは、積極的な学習活動への取組につながった。

寄付のマークが、いつも買っているスナック菓
子に付いていることに気が付いた。好きだから買
っていたけれど、寄付にもなっていた。もっとた
くさんマークを見つけてみたいと思った。

図19 抽出生徒Bのつながりシートの記録

3 まとめる過程における、自分の考えの深まり

(1) 全体の様子

追究する過程の学習が終わった後、これまでの学びを生活の中で生かすために、家庭で実践を行った。まとめる過程では、授業の始めに家庭での実践の結果を2、3人のグループで互いに発表し合い、実践の評価と反省を行った。生徒たちは、3枚の「つながりシート」を用いて、自分や友達の実践はこれまでの学びが生かされているかを確認し合ったり、今後の自分の実践につながるような具体的な改善策を提案し合ったりした（図20）。

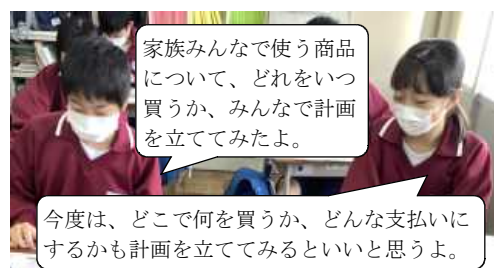


図20 改善策を提案し合う様子

題材の課題についてのまとめでは、これまでの学びが積み重ねられた「つながりシート」から、題材の学習を通して分かったことやできるようになったことを確認させた。生徒たちは自分の消費生活の変容に気づき、学習を終えた自分の消費生活について具体的に記述することができた（図21）。題材全体の振り返りでは、自分や家族の消費生活について改めて見つめ直し、更によりよい消費生活の実現に向けて新たに解決したい課題を設定した。これまでの学びによって、生徒たちは自分や家族の消費行動が環境や社会に与える影響を自覚できるようになり、新たに解決したい課題として、具体的な行動を生徒全員が記述した（次ページ図22は、そのうちの抜粋）。そして、これまでの学びを生かして積極的に実践しようとする意欲をもって学習を終えることができた。

以上のことから、「つながりシート」を用いて、これまでの学びを振り返り自分や家族の消費行動を改めて見つめ直したことは、よりよい消費生活に向けた消費行動について自分の考えを深めるために有効であったと言える。

- 商品の裏面や側面の社会や環境に関わる表示やマークなどを確認するようになった。
- 私たちには環境に配慮する責任がある。自分の物を丁寧に使うようになった。
- 家族が使えるお金には限りがあると知ったのでどこで買うかやどのように支払うか、家族と話をするようになった。

図21 学習を終えた生徒たちの消費生活（ワークシートの記述）

(2) 抽出生徒の様子

抽出生徒Aは、つかむ過程では「無駄遣いなどをしない計画的な消費者になりたい」と記述していた。題材の課題についてのまとめでは、3枚のつながりシートをじっくりと読み返しながら学習

を終えた自分の消費生活がどうなったのかを考え、よりよい消費行動について、様々な視点から多くのことを記述できていた。また題材全体の振り返りでは、自分や家族の消費生活を改めて見つめ直し、お金を計画的に管理することの意義に気付き、新たに解決したい課題を具体的に考えることができていた（図23）。

抽出生徒Bは、生活と学び「つながりシート」に記録した「環境や社会に関する配慮」への気付きを生かして、身近にある様々な商品に付けられた表示やマークの意味を調べるという家庭実践を行った。実践の発表では、「今まで気にしていなかったけれど、商品には環境や社会に関する表示やマークが付いていると知った。みんなもよく調べて買ってほしい」と述べ、自分だけではなく、みんなでよりよい消費生活を送っていきたいという思いを伝えていた。題材の課題のまとめ、題材全体の振り返りでは、更によりよい消費生活の実現に向けて、新たに解決したい課題を考え、具体的に記述することができていた（図24）。

以上のことから、抽出生徒A、B共に「つながりシート」を活用してこれまでの学びを振り返り、学習前と学習後の自分の考えや行動の変容に気付くことができたと言える。また、更によりよい消費生活の実現に向けて、消費者としての責任ある行動について自分の考えを深め、これからの生活について自分なりの言葉で表現することができたと言える。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- つかむ過程において、「つながりシート」を活用して小学校の学びを振り返り、可視化してまとめることで、小学校で学習して身に付けた知識及び技能を実際の消費生活では十分に生かすことができていないということ気付き、自分たちの問題として共有することができた。また、その気付きを基に自分の消費生活を見つめ直したり自分や家族の抱える問題を想起したりすることで、消費生活における問題を見いだして題材の課題を設定することができた。
- 追究する過程において、「つながりシート」を用いて、小・中学校や単位時間ごとのつながりを意識した学びを積み重ねたことで、これまでの学びで身に付けた知識及び技能を生かして課題の解決に取り組むことができた。
- 「つながりシート」を用いて、生活と学びとのつながりを記録することで、学びによって身に付いた知識及び技能が生活に生かされているという実感をもたせることができた。また、「つながりシート」に記録された自分の気付きについて、友達と意見を交流させることで、更に新しいことに気付くことができ、自分の考えを深めることができた。
- まとめる過程において、「つながりシート」を用いて、これまでの学びの積み重ねや自分が気

- 物を買うだけではなく最後に処分するまでが消費生活なので、どう使うか、どのように処分をすればよいか考えて行動したい。
- みんなが環境への配慮をしなければ効果がない。国では、社会や環境への配慮のためにどのような活動をしているのか調べ、参加してみたい。

図22 新たに解決したい課題
(ワークシートの記述)

<p>学習を終えた自分の消費生活</p> <p>-----</p> <p>消費者の立場を考えるだけでなく、販売者の立場に立って商品の購入を考えるようになった。物を買うときや処分をするときも、社会や環境への影響を考えた行動を意識するようになった。</p>
<p>新たに解決したい課題</p> <p>-----</p> <p>親が働いて得た収入を大切に使うために店舗を選んだり価格や品質をよく確認したりして、計画的な買物がしたい。家族でリサイクル活動を頑張っ、環境に優しい消費者一家を目指したい。</p>

図23 抽出生徒Aのワークシートの記述

<p>学習を終えた自分の消費生活</p> <p>-----</p> <p>商品のパッケージの裏を見て、社会や環境に配慮している商品かなどの情報を確認してから買うようになった。</p>
<p>新たに解決したい課題</p> <p>-----</p> <p>学習したことを生かして、自分の使えるお金をもっと計画的に管理できるようにするために、お小遣い帳をつける。</p>

図24 抽出生徒Bのワークシートの記述

付いたことについて振り返ったり、自分や家族のこれからの消費生活について改めて見つめ直したりすることで、自分の消費行動は社会や環境との関わりがあるという意識をもち、よりよい消費生活の実現に向けて、身に付けた知識及び技能を生かして、自分ができることを積極的に実現していきたいという意欲をもって学習を終えることができた。

2 課題

- 積み重ねた学びを更に深めることができるようにするための手立てとしては、教科横断的な学習の充実がある。「C消費生活・環境」の題材であれば、技術分野「個人情報保護の必要性」の学習や、社会科〔公民的分野〕「現代社会を捉える枠組み」、「市場の働きと経済」の学習等とのつながりを図ることが考えられる。そのためには、限られた授業時数の中でねらいを十分に達成させることができる指導計画を作成する必要がある。
- 小・中・高等学校それぞれの発達の段階に合った消費者教育を計画的に継続して行うためには指導者が他校種の指導内容を相互に把握する必要がある。そのために、小・中・高等学校間での連携を図り、他校種間で授業を参観し合ったり合同の部会を開催したりすることは、有効な手立てとなり得るのではないかと考える。

VIII 提言

生徒自身が、学びのつながりを視覚的に捉え、小・中学校の学びのつながりを意識しながら実践的・体験的な学習を積み重ねることによって、既習の知識や技能を活用しながら自己の課題解決を図り、身近な消費生活を工夫し創造しようとする意識を育成することができると思う。

<参考文献>

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領』(2018)
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説家庭編』(2018)
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説技術・家庭編』(2018)
- ・文部科学省 『高等学校学習指導要領解説家庭編』(2019)
- ・文部科学省 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 技術・家庭科】』(2020)
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プランⅡ』(2019)
- ・群馬県教育委員会 『令和2年度群馬県学校教育の指針』(2020)

<担当指導主事>

小倉 久代 清水 幸治